

# 平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ビーエスピー

コード番号 3800 URL <http://www.bsp.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 竹藤 浩樹

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 常務執行役員 (氏名) 秋山 幸廣

TEL 03-5463-6381

四半期報告書提出予定日 平成25年8月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	1,413	13.8	666	43.6	699	46.9	425	36.9
25年3月期第1四半期	1,242	0.4	464	3.1	476	3.0	311	22.3

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 427百万円 (38.8%) 25年3月期第1四半期 308百万円 (29.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	109.00	—
25年3月期第1四半期	78.69	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第1四半期	8,471	7,331	86.5	1,876.87
25年3月期	8,070	7,034	87.2	1,800.83

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 7,331百万円 25年3月期 7,034百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	28.00	—	33.00	61.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	30.00	—	30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,220	11.8	720	35.9	750	36.8	470	31.1	120.32
通期	4,200	6.8	1,160	8.0	1,200	9.4	750	5.7	192.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期1Q	4,250,000 株	25年3月期	4,250,000 株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	343,757 株	25年3月期	343,757 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期1Q	3,906,243 株	25年3月期1Q	3,953,870 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載の業績予想数値は、当社が本資料発表時点で入手可能な情報による判断、仮定および確信に基づくものであり、今後の内外の経済情勢、事業運営における状況変化、あるいは見通しに内在する不確実な要素や潜在的リスク等さまざまな要因によって、実際の業績は予想数値と大きく異なる結果となり得ることがあります。なお、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する予測不可能な影響等も含まれます。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで。以下、当第1四半期)におけるわが国経済は、新政権による新たな経済政策の発動、輸出の持ち直し、自動車生産の回復、円安による企業収益拡大への期待等により明るさが見えてきたものの、一方では、家計における所得環境は依然脆弱なままとなっています。また、世界経済においても、欧州景気の失速のほか、米国や新興国の成長鈍化により成長のベースが抑制されているなど、依然不透明感が残る状況が続いております。

産業界では、円安の進展や生産活動の回復に伴い企業収益が増加する中、ITシステムに対する投資意欲の改善が見られ、当社においても、大型案件の受注などにより売上高は、堅調に推移いたしました。

そのような中、今期当社グループは、ITシステム運用分野に特化したソフトウェアの開発・販売事業を本格的に開始してから20周年を迎えました。当社グループは、本年度を、これからの事業拡大に向けた節目の年度として「お客様のIT部門がITサービス部門へ変革していくためのコンセプト＝運用レス2.0」を事業展開の基軸に置き、ソリューションを提供してまいります。「運用レス2.0」とは、2つの方向からお客様のシステム運用部門の変革を支援するもので、ひとつは、クラウド環境を含めたシステム機能全体の価値向上に貢献するサービスマネジメントの提供であり、もうひとつは、システム運用部門における、オペレーション運用の汎用的業務の効率化を支援するものです。今期は、これら2つの方向からのソリューションを、「自動化」「アウトソーシング」「集約化」「クラウド化」「セルフ化」の領域に区分し、製品やサービスを順次リリースすることにより、お客様の利便性向上を追求してまいります。

当社グループの当第1四半期における売上高は、14億13百万円(前年同期比13.8%増)、営業利益は6億66百万円(同43.6%増)、経常利益は6億99百万円(同46.9%増)、四半期純利益は4億25百万円(同36.9%増)、1株当たり四半期純利益は109円00銭(前年同期は78円69銭)となりました。

売上高については、プロダクト事業、メインフレーム事業が牽引し、前年同期比増収となりました。利益面については増収効果に加え、プロダクト事業の採算性の改善、経費削減等により前年同期比増益となりました。

セグメント別の状況は以下の通りです。

## ①プロダクト事業

プロダクト事業売上は、4億3百万円(前年同期比27.0%増)、営業損失は92百万円(前年同期は1億83百万円の損失)となりました。

製品売上は1億21百万円(前年同期比50.9%増)、技術支援サービス売上は78百万円(同56.9%増)、保守サービス売上は2億3百万円(同8.7%増)となりました。

プロダクト事業全体では、企業の設備増強によるリピートオーダーを獲得したこと、基幹システムの刷新などの大型案件を成約したことなどから、製品売上、技術支援サービス売上および保守サービス売上ともに前年同期比で増加しました。また、海外売上においては、中国での販売強化のために同国で幅広い販売網を持つ株式会社ビーコン インフォメーション テクノロジー(以下、ビーコンIT)との上海での拠点統合等による協業強化により、前年同期比で伸張しました。

## (運用自動化分野)

運用自動化分野の売上は、1億70百万円(前年同期比2.2%増)となりました。

販売チャネルを増加させるため、当社の主力製品であるジョブ管理ツール「A-AUTO(エーオート)」の機能を他社製品と連携させる仕組みづくりに注力しました。その結果、ビーコンITの高速ETLツール「Waha!Transformer」の新バージョンに組込むなど、新たな製品展開を行いました。

また、平成25年1月にジョブ管理ツールとして初めて「Oracle Linux」に搭載されている

「Unbreakable Enterprise Kernel」に対応しました。その結果、同5月には、「A-AUTO」が大手音楽ソフト会社の「Oracle Linux」によるログ高速解析処理を自動化するツールとして採用されるなど、他社連携の効果が現れました。

## (帳票システム分野)

帳票システム分野の売上は、1億44百万円(前年同期比12.1%増)となりました。

パートナー企業である日立グループとの協業関係を強化するため、株式会社日立製作所の帳票ミドルウェアに連携する機能を当社の帳票基盤ツール「BSP-RM(ビーエスピー・アールエム)」に搭載し発売を開始しました。しかしながら、他のパートナー企業との協業の遅れや大型案件の期ずれなど、営業面では苦戦しました。

## (ITサービスマネジメント分野)

ITサービスマネジメント分野の売上は、63百万円(前年同期比192.2%増)となりました。

平成25年5月、クラウド版ITサービス管理ツール「LMIS on cloud(エルミス・オン・クラウド)」の新バージョンであるVer1.2を発売しました。この製品は、これまで以上に多くのユーザ利用を想定し、大規模運用からモバイルまで多様な利用シーンでの活用に対応することを目的に開発したものです。

これが奏功し、ANAグループの全業務システムを対象とした運用システムの統合管理基盤として、同ツールが採用されるなど、大規模運用に対応した導入実績があがっております。

## ②メインフレーム事業

メインフレーム事業売上は、9億71百万円(前年同期比10.0%増)、営業利益は7億75百万円(同12.3%増)となりました。

製品売上は1億95百万円(同146.5%増)、技術支援サービス売上は10百万円(同34.4%減)、保守サービス売上は7億66百万円(同2.8%減)となりました。

製品売上は、大手通信系データセンタ企業の大型マシン更改等を受け大幅に増加しましたが、技術支援サービスは前期下期の受注活動の不足から減少しました。また、保守サービス売上はオープン化の潮流のなか、当初の見込み通り減少しました。

## ③ソリューション事業

ソリューション事業売上は、38百万円(前年同期比7.1%減)、営業利益は3百万円(前年同期は2百万円の損失)となりました。

現在、経営に貢献する運用部門の構築に向けたメソッドである「ASMO(アドバンスドサービスマネジメント オフィス)」を訴求するため、グループ内協働体制によるお客様の経営層へ直接アプローチを行い、ニーズの喚起に取り組んでおります。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第1四半期末における総資産は、前連結会計年度末(以下、前期末)と比較して4億1百万円増加し、84億71百万円となりました。これは主に、現金及び預金が4億49百万円増加した一方で、受取手形及び売掛金が37百万円、ソフトウェアが11百万円それぞれ減少したことによるものです。

## (負債)

負債は、前期末と比較して1億4百万円増加し、11億40百万円となりました。これは主に、未払法人税等が85百万円、保守サービス引当金が31百万円増加したことによるものです。

## (純資産)

純資産は、前期末と比較して2億97百万円増加し、73億31百万円となりました。これは主に、四半期純利益の計上により4億25百万円増加し、配当金の支払いにより1億30百万円減少したことによるものです。

この結果、自己資本比率は86.5%(前期末は87.2%)となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、中期経営計画の2年目を迎え、先に掲げた「運用レス2.0」のコンセプトのもと事業計画を推進しております。

製品開発面では、主力製品であるジョブ管理ツール「A-AUTO（エーオート）」を仮想化環境下でのシステム運用管理ニーズに対応すべく「ログ管理」機能と「サーバ監視」機能を統合した新バージョンVer. 8.0の市場投入に向けて開発を推進しております。

新サービスの開発では、複数のITリソースやストレージ等をクラウド環境で提供することができる「Be.Cloud」、ITシステムのインフラ構築から運用管理機能まで一連の運用業務代行を行う「運用BPO」プロジェクトの立ち上げなど、新しい事業モデルの早期確立に取り組んでおります。

営業機能の強化では、前期に導入した役割別営業体制の定着化による受注力の強化とマーケティング組織の強化に注力してまいります。さらに、多様なお客様ニーズに対応すべく、資本・業務提携先であるビーコンITとの販売協力体制の強化を図ってまいります。

なお、現時点では、当社連結業績は期初計画に沿って進捗していることから、平成25年5月8日発表の連結業績予想に変更はありません。

中間および期末配当金につきましても、1株当たり30円00銭（年間配当金は60円00銭）から変更はありません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

## (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

## (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,712,167	4,161,844
受取手形及び売掛金	841,080	803,372
有価証券	1,499,700	1,499,696
たな卸資産	15,596	16,204
繰延税金資産	121,157	121,157
その他	106,202	91,640
流動資産合計	6,295,904	6,693,916
固定資産		
有形固定資産	68,744	80,031
無形固定資産		
ソフトウェア	64,713	53,579
その他	1,478	1,478
無形固定資産合計	66,191	55,057
投資その他の資産		
投資有価証券	1,473,332	1,461,743
その他	166,058	180,919
投資その他の資産合計	1,639,390	1,642,663
固定資産合計	1,774,326	1,777,752
資産合計	8,070,231	8,471,669

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	43,801	42,857
未払法人税等	184,727	270,320
賞与引当金	57,200	20,462
役員賞与引当金	5,134	1,167
保守サービス引当金	123,700	155,200
その他	585,997	616,263
流動負債合計	1,000,560	1,106,270
固定負債	35,179	33,890
負債合計	1,035,740	1,140,160
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,330,000	1,330,000
資本剰余金	1,517,658	1,517,658
利益剰余金	4,454,330	4,749,666
自己株式	△309,132	△309,132
株主資本合計	6,992,856	7,288,192
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	43,539	42,575
為替換算調整勘定	△1,904	741
その他の包括利益累計額合計	41,634	43,316
純資産合計	7,034,490	7,331,508
負債純資産合計	8,070,231	8,471,669



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	1,242,054	1,413,288
売上原価	61,959	86,720
売上総利益	1,180,094	1,326,567
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	197,456	198,731
賞与引当金繰入額	18,395	16,145
役員賞与引当金繰入額	3,465	1,167
保守サービス引当金繰入額	55,000	31,500
研究開発費	108,402	86,230
その他	333,347	326,481
販売費及び一般管理費合計	716,068	660,255
営業利益	464,026	666,311
営業外収益		
受取利息	520	501
受取配当金	14,182	26,275
その他	1,492	11,398
営業外収益合計	16,195	38,175
営業外費用		
コミットメントフィー	312	250
為替差損	3,719	2,098
持分法による投資損失	—	2,498
その他	0	—
営業外費用合計	4,032	4,847
経常利益	476,189	699,639
税金等調整前四半期純利益	476,189	699,639
法人税等	165,052	273,827
少数株主損益調整前四半期純利益	311,137	425,811
四半期純利益	311,137	425,811

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	311,137	425,811
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,286	△1,509
為替換算調整勘定	△790	2,535
持分法適用会社に対する持分相当額	—	656
その他の包括利益合計	△3,076	1,681
四半期包括利益	308,061	427,493
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	308,061	427,493
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	プロダクト 事業	メイン フレーム 事業	ソリューシ ョン 事業				
売上高							
外部顧客への売上高	317,431	882,952	41,670	—	1,242,054	—	1,242,054
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	317,431	882,952	41,670	—	1,242,054	—	1,242,054
セグメント利益又は 損失(△)	△183,244	690,533	△2,259	△41,002	464,026	—	464,026

(注) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	プロダクト 事業	メイン フレーム 事業	ソリューシ ョン 事業				
売上高							
外部顧客への売上高	403,243	971,195	38,693	155	1,413,288	—	1,413,288
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	403,243	971,195	38,693	155	1,413,288	—	1,413,288
セグメント利益又は 損失(△)	△92,008	775,780	3,482	△20,942	666,311	—	666,311

(注) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。